練馬区立大泉中学校　　学校だより

大泉

「人は学ぶ」
「人は変わる」
「人は輝く」

１月号
令和６年１月３０日
発行者　新村　紀昭
編　集　相川　直綱

画竜点睛

締めくくりの3学期を迎えて

3学期を迎え、約一カ月が経とうとしています。この間、1年生は横浜校外学習、2年生と10組はスキー移動教室が実施されました。いずれの行事も、大きな事故の発生もなく、しっかりと行動できました。また3年生は自己実現に向けて、学年全体で受験に向かって落ち着いて全力で取り組んでおり、その姿勢は素晴らしいと思います。

さて、年頭にあたり、始業式の講話を再度紹介します。今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」です。十干十二支では、十干の１番目である「甲」と十二支の５番目である「辰」が重なる年に当たるそうです。「甲」は、十干（じっかん）の最初の文字で、物事の「はじまり」を象徴します。また、昔の成績順が「甲・乙・丙」であったように、「一番目」の意味も。草木が成長し勢いを増す様を表すともいわれます。「辰」は「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長する、活力が出て盛んになる状態を表すそうです。また、辰は竜（龍）のことでもあり、十二支の中で唯一の空想上の生きものです。東洋で権力・隆盛の象徴として親しまれていた龍は、身近な存在であったことから干支に選ばれたと言われています。このことから、「甲辰（きのえたつ）」は、上昇し勢いを増しながらぐんぐんと成長していく年と言われているようです。

60年前の「甲辰」の年は、初めての東京オリンピック開催、東京モノレール開業、東海道新幹線開業、日本武道館開館、太平洋横断ケーブル開通など、人が国境を越えて行き来し、新しい技術が広く使われるようになった、高度経済成長の時代です。また、2000年の辰年、シドニー五輪では、女子としては史上初の金メダルを獲得した女子マラソンの高橋尚子さんや、日本女子柔道史上初の金メダルを獲得した田村亮子さんなどの活躍で過去最多の18個のメダル獲得がありました。

今年も同じように、AIを活用した新しい技術の普及が進んだり、世界中の人がパリオリンピック・パラリンピックに集い、交流が広がったりすることでしょう。

では、辰年にちなんで「画竜点睛」という故事成語について話します。

中国の南北朝の時代、南朝の梁（りょう）に張僧繇（ちょうそうよう）という名画家がいました。あるとき彼は、金陵（きんりょう、今の南京）の安楽寺の壁に 竜を描くことを頼まれ、4匹の白い竜の絵を描きました。その竜は今にも 壁を突き破って天にも 昇りそうな勢いがあり、見る人すべて息を飲みましたが、不思議なことに瞳が描き入れられていませんでした。不思議に思った人々が彼に理由を尋ねると、彼は『もし瞳を入れたら、竜が天に飛んでいってしまうからだよ』と言いました 。しかし、人々は信じることができずに、ぜひ瞳を描き入れるように彼に求めました。そこで仕方なく彼が4匹のうち2匹に瞳を入れると、たちまち稲妻が走って壁が破れ、2匹の竜は雲に乗って天に飛び去ってしまいました。あとには瞳を入れなかった2匹の竜だけが残ったそうです。　　（参考『漢文故事物語』評論社）

この故事から「画竜点睛」という言葉が生まれ、「物事を立派に完成させるための最後の仕上げ」という意味で使われるようになりました 。

3学期は、登校日を数えてみると、3年生は卒業式まで51日、1，2年生は修了式まで54日と、大変短い期間です。しかし、この期間は一年間を締めくくり、最後の仕上げをする大切な時期であり、しっかりした気持ちで過ごすことが、4月からの新しい生活や学年の、良いスタートにもつながります。各学年とも団結力を高め、「画竜点睛を欠く」ことがないように、最後までしっかりと充実した生活をおくりましょう。

最後に、年頭の能登半島地震により今も被災しておられる方々へ、心よりお見舞いを申し上げるとともに、本年も本校の教育活動にご理解・ご協力をお願い申し上げます。

スキー移動教室を終えて　　担当主任教諭　近藤 美咲

今回のスキー移動教室では、一番重要としていた「集団宿泊生活を通して、規律と思いやりのある行動を学び、仲間との交流を深める」という目的が概ね達成できたと感じています。普段は体験できない仲間との共同生活を通して、お互いが配慮し合う大切さを特に感じた3日間だったと思います。バス内や宿舎での行動や声の大きさ、自分の係に責任をもって役割を果たすこと、しおりを読んで行動することなど、全ての行動がより快適な生活に繋がり、仲間のためになっていることが理解できたと思います。これは学校生活でも同じことなので、今後の生活に活かせる学びとなったはずです。

また、「冬の自然の中での厳しさや素晴らしさを体験する」という目的も体験することができました。初日の吹雪の中での実習では、冬の自然の厳しさに直面しました。“星が見えなかった星空観察”も仲間と同じ空を見上げる貴重な時間となり、その時の寒さも自然の厳しさを肌で感じる機会となりました。2日目と3日目には、晴天の中で素晴らしい雪景色を見ながらの実習ができ、よりスキーを楽しく感じたと思います。

最後に、実行委員の生徒や宿舎での室長、実習班の班長など、多くの生徒が場面に応じてリーダーシップを発揮してくれたことがとても嬉しかったです。司会や代表の挨拶は事前に原稿を自分たちで作り、多くの人の前で話すということを想定して練習を重ねました。レク大会は、実行委員が一生懸命準備し、そこに学年の仲間の協力が重なってできたとても素敵な時間でした。学校生活でも、場面ごとにリーダーになる人と、そこに協力する人の力で作り上げることがたくさんあります。今後も、今回のスキー移動教室のように、力を合わせて素敵な瞬間を作り上げる集団でいてほしいです。

今回、『完全燃焼』をスローガンにしたこの3日間が、楽しい思い出となった生徒が多かったと思います。しかし、もしかすると、少し悔いや課題が残り『不完全燃焼』の部分がある人もいるかもしれません。また、参加したくてもできなかった人や体調不良で途中で帰宅せざるを得なかった人など、学校では様々な思いを抱えた人が一緒に生活をしていきます。そういう様々な人の思いもお互いに理解し合った上で、今回のスキー移動教室の経験を多方面に活かしてくれることを願っています。

学校における働き方改革について　　練馬区教育委員会より

近年、国内で 教員の長時間勤務の実態が明らかとなり、このことが子供の学びを支える教員の心身の健康に少なからず影響を及ぼし、日々の教育活動に重大な影響が生じることが懸念されています。こうした状況を踏まえ、練馬区教育委員会では、平成31年3月に「練馬区立学校（園）における教員の働き方改革推進プラン」を策定し、「教員の業務改善に向けた人材の配置」「教員の業務を軽減する環境整備」「部活動のあり方の見直し」等の取組を進めてまいりましたが、教員が子供たちと向き合うための時間や授業の質を高めるための授業準備の時間を一層確保するため、別添チラシのとおり、令和６年度から 、「電話機の応答メッセージ設定時刻の変更」「土曜授業日の見直し」「通知表の所見の記載の見直し」の3点の取組を進めることにいたします。保護者および地域の皆様にはご不便をおかけすることもあるかとは存じますが 、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。